

アメリカの女子大学におけるトランスジェンダー女性 受け入れ方針表明の翻訳

Translation of Announcements on Acceptance Policy for
Transgender Women at Women's Colleges & Universities in the U.S.

安東由則 *

ANDO, Yoshinori

目次

はじめに：翻訳に当たっての方針

Agnes Scott College

Barnard College

Bryn Marw College

Scripps College

Simmons University

Smith College

Spelman College

Wellesley College

はじめに：翻訳に当たっての方針

2023年7月現在、筆者の調査では、アメリカには約30校の女子大学が存在する。そのうち、トランスジェンダー女性の受け入れを行なっている女子大学は、少なくとも20校以上に及び、受け入れていない女子大学が少数派となった。

アメリカでトランス女性の女子大学への受け入れが大きくクローズアップされるようになったきっかけは、2013年2～3月、マサチューセッツ州にある名門女子大学・スミス大学にトランスジェンダー女性が出願したが、大学は書類不備との理由で願書の受付を拒否したことである。これに対してこのトランス女性がSNSを通じて抗議を投稿し、支援団体や支援学生らがこれに加わり、この件をマスコミが大きく報じるなどして全米の話題となった。性的マイノリティの一つであるトランスジェンダー女性を支援する動きが広く展開され、これを機に他の女子大学においてもトランスジェンダー女性の入学を議論するようになっていったのである。翌2014年にはミルズ大学とマウントホリヨーク大学が、翌2015年にはプリンマー、ウェルズリー、スミス、バーナードといった旧セブンシスターズの女子大学も次々に受け入れを決定した。ただ、受け入れ基準は大学によって多少異なる(以上、安東2019, Smith他2019)

日本では、近年、性的マイノリティへの人権擁護の動きが活発化してきたことに加え、上記のようなアメリカにおける女子大学の動向も入ってくる中で、2017年3月の朝日新聞による報道(日本女子大学におけるトランスジェンダー女性と女子大学に関するシンポジウム)を契機に、幾つかの女子大学で議論が始められ、受け入れを公表する大学が現れ始めたところである(受け入れ開始4校、受け入れ公表2校:2023年8月時点)。ところが、朝日新聞の報道から6年、お茶の水女子大学が最初に受け入れを表明した2018年から5年が経過するが、これに追隨する女子大学はまだ少なく、どれほど各女子大学で受け入れに向けて話し合いが進んでいるかは不明である。

本稿では、トランスジェンダー女性の受け入れを決定したアメリカの女子大学が、大学ウェブサイトに掲載している、受け入れ決定のアナウンスメントやトランスジェンダー志願者への説明文、入学に関する質問回答などを幾つか選択し、翻訳したものを掲載する。今後、日本の女子大学がトランスジェンダー女性の受け入れについて議論し、準備をしていく過程で参考になると考える。

主に伝統を有する有名女子大学のウェブサイトから、トランスジェンダー女性の受け入れに関する様々な種類の文章を選択し、翻訳した。記載大学のうちスクリプス大学は他と異なり、クラレモント大学群の中にある唯一の女子大学で、共学大学と隣接し交流も盛んな環境にある。そうした大学の様子が描かれた「学生の声」を掲載した。翻訳に当たっては、業者に粗訳を依頼し、その後、著者が原文と照らし合わせながら加筆、修正をおこなった。誤訳があれば、筆者の責任である。

引用文献

安東由則 2019. 「2017年度 スミスカレッジ調査の目的・調査経緯とインタビューの解説及び補足」

『研究レポート』(武庫川女子大学教育研究所) 49, 1-22.

Smith, A., Shaver, D., 安東由則 2019. 「スミスカレッジにおけるトランスジェンダー学生の受け入れ議論：スミス副学長とシェイパー氏へのインタビューから」『研究レポート』(武庫川女子大学教育研究所) 49, 23-40.

ジェンダー表現とジェンダーアイデンティティに関する声明

(Statement on Gender Expression and Gender Identity)

Originally adopted April 2010; Revised November 2010, July 2011, June 2013, and November 2014

アグネススコット大学は、社会のジェンダー規範に異議を唱える学生を含むあらゆる学生に対して、安全な学習環境の提供に努めている、多様性をもつ包摂的なコミュニティです。本学は、米国の長老派教会で初めて叙任された女性、最高裁判所で弁論を行った最初の女性の1人など、当時のジェンダー規範に挑戦する生き方をしてきた数多くの先駆的な卒業生たちを誇りとします。本学は、女子大学には独自の価値と長所があると信じており、“この国の最高の教育機関と十分に比肩しうる”、女性へのリベラルアーツ教育の提供に重点をおいた教育機関としての豊かな遺産を祝福します。また、女子大学が学生たちに対して、当時は急進的あるいは型破りだと思われていたものを含め、(彼女たちの) アイデア、憧れ、アイデンティティといったものを、自由に探究し追求する機会を提供してきたことも誇りとするものです。私たちが提示したジェンダー表現とジェンダー・アイデンティティに対するサポートの表明は、本学が使命を果たすべく模索している数多く方途となんら矛盾するものではありません。

アグネススコット大学では、“女性たちがよく考え、立派に生き、その時代の知的・社会的課題に取り組むように教育を行っています”。

2014年の戦略計画「Engaging a Wider World」(より広い世界との関わり)において、本学は“キャンパス全体を通して、正義、勇気、誠実性、敬意、責任といったものに深く関わっていく生きた実験室”となることを約束しました。本学の目標は、“すべてのメンバーに参加と発言の手段を提供する、より包摂的なキャンパス・コミュニティへと発展させること”、そして、“教育の卓越性においてカギとなる、多様性に関する知識とその尊重を育むこと”なのです。

これらの公約を踏まえ、本学はレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア*、インターセックス**、クエスチョニング*** (LGBTQIQ) であると自認する学生を含む、全ての学生をサポートします。このようなサポートは、すべての人にとって安全な学習環境および生活環境を作るために設計された、様々な大学サービスの形をとって行われています。本学は、あらゆるジェンダーの個人を認め、尊重するとともに、本学に入学し、卒業したトランスジェンダー女性、トランスジェンダー男性、ノンバイナリ****の個人を誇りとします。本学は、女子大学としてのアイデンティティ、そして卓越した包摂性を大学の使命に盛り込むことを約束したコミュニティとしてのアイデンティティをもつものです。

私たちは今後も、すべての人が、そのジェンダー・アイデンティティやジェンダー表現にかかわらず、市民として認識され、安心して本来の生活を送れるようにするため、ジェンダー・ダイバーシティの理解と受容とを育む取り組みを支援してまいります。

私たちは、コミュニティのすべてのメンバーが、どうすればジェンダー・アイデンティティやジェンダー表現がジェンダー規範と食い違っている個人を支援できるのか、その方法について学ぶことを奨励しています。本学の附属機関である、The Gay Johnson McDougal Center for Global Diversity and Inclusion では、教育と支援を提供し、全学生、教員、スタッフの質問や懸念に対処するリソー

ス（資源 / 供給源）としての役割を果たしています。同センターは、LGBTQIQ コミュニティのメンバーに関する知識を深め、共感を高めるために特別に設計されたプログラムである“Safe Zone and Trans 101 トレーニング”など、様々なワークショップ、対話、トレーニングといったものを提供しています。これらのプログラムは、本学が快適で包摂的なコミュニティとなるための継続的な取り組みを強化するものとなっています。

出典：<https://www.agnesscott.edu/center-for-diversity-and-inclusion/statement-on-gender-expression-and-gender-identity.html>

2022 年 12 月 30 日 retrieved (2023 年 9 月 10 日現在においても掲載を確認)

* クイア (queer) : LGBTQIA+ の人々の一部が、社会的規範の枠外にある性的アイデンティティやジェンダーアイデンティティを表現するために使う総称 (p.204)

** インターセックス (intersex) : 解剖学的に、社会における典型的な男性および女性の定義に完全に当てはまらない人をまとめて指す性別 (p.203)

*** クエスチョニング (questioning) : 自分の性的指向や恋愛の指向、またはジェンダーアイデンティティが不確かな状態 (p.205)

**** ノンバイナリ (non-binary) : 生物学的性とジェンダーの男女二元論の枠組みの外に存在すると自分を位置づけること、男性でも女性でもない状態 (p.211)

(出典：マーデル, A. (須川綾子訳) 2017. 『13 歳から知っておきたい LGBT+』ダイヤモンド社)

バーナード大学 Barnard College (所在地：New York, New York / 創立：1889 年)

バーナード大学トランスジェンダーの学生の受け入れ方針 (Barnard Announces Transgender Admissions Policy)

June 4, 2015

バーナード・コミュニティのメンバーへ

バーナード大学理事会は (2015 年) 6 月 3 日の会議において、トランスジェンダーである志願者の入学に関し、以下の方針を協議し承認しました。

バーナード大学の使命は、1889 年の創設以来、何世代にもわたり、女性がリーダーを務めているバーナード・コミュニティにおいて、向学心あふれる有望な若い女性たちに対して、優れたリベラルアーツ教育を提供することにあります。このユニークな環境はあらゆる面において、現在もそして未来においても常に、女性たちのために、そして本学の卒業生が活躍し、世界に貢献していけるように設計され、実行されるのです。この本学の使命は確固たるものであり、現在も変わらないどころか、これまでより一層重要になっているのです。

女子大学としての私たちの使命、伝統、価値をさらに発展させるため、そして、世界の変化とジェンダーアイデンティティに対する理解の進化を鑑み、バーナード大学は、出生時に割り振られた性別

に関係なく、一貫して女性として生活し、自らを女性と認識する志願者の入学を認めることにします。また本学は、女子大学としてのアイデンティティを反映した、ジェンダーに基づいた言語を引き続き使用していきます。

この入学方針は、本学在学中に性別を転換した学生に対して何ら影響を与えるものではありません。一度入学すれば、本学の全学生は、学生生活に欠かせない重要な要素である個々に応じた支援を受けることができます。ある学生がバーナードに在学中に、本学が女子大学としてふさわしい環境ではなくなったと判断した場合には、本学はその学生にとって最善の選択を行えるよう、支援と情報の提供を行っていきます。

本方針の決定は1年にわたる話し合いの集大成です。キャンパスライフ委員会主導の理事会は、本年度の会議で毎回、トランスジェンダー学生の入学に関する議題を話し合いました。委員会と経営陣からなるメンバーは、広範囲の資料に目を通し、バーナードの教員を含む専門家らと相談し、できるだけ幅広く意見を交換しあいました。5回のタウンホールフォーラムと1回のオンラインフォーラムには、数百人のコミュニティメンバー（学生、教員、卒業生、保護者、スタッフ）が参加しましたし、オンラインアンケートでは900件を超える回答が集まりました。

そのアンケートを通じて最も強く伝わってきたことは、本学コミュニティがバーナード大学に対する深い愛情と、本学にとって正しいことをすべきだという思いを共有しているということでした。予想通り、非常に熱のこもった、そして強固な信念が語られ、議論がなされました。そのなかで出された次の2点についての回答は説得力があり明快でした。まず一つは、バーナード大学が女子大学としての使命をもつことを再確認すべきだということであり、議論の余地はありませんでした。もう一つは、トランスジェンダー女性に本学への入学資格があることであり、これについては、ほとんど議論を必要としませんでした。

この方針は、数か月にわたる議論の末、キャンパスライフ委員会の議長より勧告され、執行委員会で審査されて、2015年6月3日に全体の理事会で承認されました。来年度（2016年）、本学のスタッフが実行計画を作成し、この計画は、2016年秋の入学志願者（2020年卒業生）から実施されることとなります。

この取り組みに参加してくださった皆さん、とりわけ、広い視野で考えるよう、そして多様性への本学の取り組みを支援するよう後押ししてくれた学生たちに感謝いたします。また、この重要な課題を検討するにあたり、キャンパスライフ委員会を思慮深く導いてくださった卒業生、Frances Sadler（1972年卒）、Diana Vagelos（1955年卒）にも心から感謝を申し上げます。

皆が集い、本学の歴史を振り返り、基本理念を改めて確認できたことは、創立125周年という年に、ふさわしい出来事でした。私たちは互いに教えあい議論しあいました。バーナード大学はこれまでもまして強くなったのです。

敬具

Jolyne Caruso-FitzGerald 理事長

Debora Spar 学長

出典：<https://barnard.edu/news/barnard-announces-transgender-admissions-policy>

2022年12月21日 retrieved（2023年9月10日現在においても掲載を確認）

プリンマー大学 Bryn Mawr College (所在地: Bryn Mawr, Pennsylvania / 創立: 1885 年)

トランスジェンダーの志願者へ (Transgender Applicants)

プリンマー大学における学部教育の使命は、物事に対して知的に取り組み、内省的かつ倫理的な女性リーダーを育て、彼女らをエンパワーすることにあります。この使命を果たすため、本学では包括的なアプローチを採用しています。そのため、卓越性を発揮するために欠かせない多様性を重視する組織であるプリンマーのアイデンティティを反映して、本学ではジェンダーは流動的なものであり、ジェンダー・アイデンティティとその表出に関する従来の考え方は限定的なものになっているとの認識をしています。プリンマー大学としては、ジェンダーの複雑さについて考えることは、学習の機会であり、またできる限り最高の女子大学となる方法を模索する機会だと認識しています。さらに本学は、学生が在学中も、卒業後も、新たなジェンダー・アイデンティティを表明する可能性があることも認識しています。プリンマー大学は、現在、そして未来においても本学の全ての学生のために尽力し、彼女らを継続的に迎え入れ、支え、誇りをもって卒業生であると断言します。本学の女性中心の視点は、学部教育の使命として欠かすことのできない基本的な要素ですが、決して特別なコミュニティのメンバーを排除しようとするものではありません。

この本学の使命とジェンダーに対する上記のような理解に照らして、プリンマー大学では、自らを女性と同定し、今後もそう認識し続けるすべての個人（シスジェンダーとトランスジェンダーの女性を含む）、自らを男性と認識していないインターセックスの個人、女性として生まれ男性となるための医学的または法的な措置を講じていない個人、女性として生まれジェンダー・バイナリ（gender-binary 男か女か）を同定していない個人、以上の人々は、本学学部に出願する資格があるものとします。

以上の認識を実行に移すために、プリンマー大学は柔軟かつ包括的な姿勢で取り組んでまいります。本学では、各志願者の長所を評価する入学願書の審査に、包括的なアプローチを採用しています。疑問をもった場合には、入学事務局（Office of Admissions）に連絡をとってください。また、フォローアップのため志願者に追加の情報提供を求めることもあります。

出典: <https://www.brynmawr.edu/admissions-aid/admissions-aid-policies/transgender-applicants>

(掲載日時は不明)

2022 年 12 月 23 日 retrieved (2023 年 9 月 10 日現在においても掲載を確認)

マウントホリヨーク大学 Mount Holyoke College (所在地: South Hadley, Massachusetts /

創立: 1837 年 / 大学昇格: 1893 年)

インクルーシブ入試 (Inclusive Admission)

あるがままのあなたで来てください (Come as you are)

マウントホリヨークでは、私たちはともに自分らしくあることができます (We are ourselves, together)

マウントホリヨーク大学は、人があるがままであることを祝福します。本学のコミュニティは、文化、信念、アイデンティティなど様々なバックグラウンドを持つ世界中の人々を歓迎しています。多様かつ公平で包摂的なコミュニティを構築し、それを育てていくことは、私たちの大学、コミュニティ、そして入学事務局にとって最優先事項なのです。

本学は、多様なジェンダーを包摂する女子大学として、女性、トランスジェンダー*、ノンバイナリーの学生の出願を歓迎します。入試プロセスにおいては、好奇心旺盛な学生を求めています。大きなアイデアを追求することと、世界をより良い場所にするために勇敢な行動を取ろうとする情熱、この二つが、学生のあらゆる行動に力を与えるからです。

私たちは、皆さんが知識を増やし、あなた自身の、あなたのコミュニティの、さらには世界の可能性を広げていく中で、本学がどのように貢献できたのか、あなたの物語を聞けますことを楽しみにしています。

* マウントホリヨーク大学では、MTFのトランスジェンダーだけでなく、FTMのトランスジェンダーも受け入れている。(筆者)

出典：<https://www.mtholyoke.edu/admission/inclusion> (掲載された日時は不明)

2022年12月26日 retrieved (2023年9月10日現在においても掲載)

スクリプス大学 Scripps College (所在地：Claremont, California / 創立：1926年)

女子大学に入学することに対する誤解 —クレアモントのキャンパスライフ

(The Misconceptions of Attending a Women's College — 5C Life)

April 2, 2021

大学の説明会に参加した多くの入試担当者が述べているように、スクリプス大学の相当数の学生は、進学先の検討を始めた頃、女子大に行くことを考えていませんでした。スクリプス大学は、クレアモント*に属する他大学があるおかげで、女子大に通いながら男女共学の学生生活も体験できるユニークな機会を提供しています。私がスクリプス大学への進学を決めて周囲にそのこと話す際、気が付くと、スクリプス大学に行く理由を正当化するために他の5C (5 colleges)*の存在に頼っていることがよくありました。この大学を選ぶことに若干の不安を感じ、性別の固定した大学へ行くことで何らかの機会を失うのではないかと心配していたことは確かです。

スクリプス大学で最終学期を迎えた今、私は女子大学の学生生活と他の5Cがスクリプスでの生活に与える影響に関して(入学時とは)全く異なる考えを持っています。

まず、スクリプス大学の学生は、全員が女性というわけではありません。学生の中には、トランスジェンダーの男性、ノンバイナリーの学生、その他ジェンダーノンコンフォーミティ (gender nonconformity) の学生がおり、全員がスクリプスのコミュニティに属し、利益をもたらしているのです。ですから、長い歴史を有する女子大学に対して抱いている、(女子大学は)多くの女性に囲ま

れているだけという思い込みは間違っています。CORE クラスのように完全なるスクリプス大学のみの環境に身をおく場合でも、室内には多様なジェンダーが存在しているのです。

第二に、私は入学前、キャンパス外でシス男性（出生時も現在の性自認も男性）の友達を作るのに苦勞するだろう、クレアモントの5Cは社会的に隔離されていると考えていました。事實はこれとは全く異なりました。シス男性は、私たちの教室でも、食堂、図書館、クラブなど、キャンパス内のあらゆる場所で見かけます。周りの人は、私がスクリプス大学に通っていると知っていても私を特別扱いしませんし、私も彼らがスクリプス大学の学生ではないからといって特別扱いしたりしません。私はスクリプス大学以外の大学に通う、あらゆるジェンダーアイデンティティの学生達と仲良く友情を育むことができているし、大学が異なることはなんら私たちの友情づくりの邪魔をしたり障害になったりすることはありません。

私がかかっていた三つめの誤解は、共学のクレアモント大学群がスクリプス大学での学生生活をまっとうなものにしてくれるだろうというものでした。この考えは、先ほどの2つの誤解よりも長く持っていたもので、3年生のときに海外に行くまで、誤解だとは気づいていませんでした。私がイタリアという初めて訪問した国において、1日の半分以上を外国語で過ごしたことよりも、5C以外の学生たちからカルチャーショックを受けました。そこで気づいたことは、一緒に海外に行った人たちの大半よりも、5Cの学生達の方がクラスメートや仲間を受け入れ、尊重し、感謝しているということでした。私は、誰もが他者と共有するスペースを持ち、その場に積極的に参加してクラスメートの話を聞くような教室環境に慣れて育ってきたので、それが数か月間奪われたことは衝撃的な経験だったのです。

* クレアモントは以下7つの独立機関から構成され、コンソーシアムを形成している。

Pomona College, Scripps College, Claremont McKenna College, Harvey Mudd College, Pitzer College, Claremont Graduate University, and Keck Graduate Institute

下線で示したものが学部中心の5大学。これが“5C”とされている（筆者）

出典：<https://www.scrippscollege.edu/admission/the-misconceptions-of-attending-a-womens-college>
2022年12月26日 retrieved (2023年9月10日現在においても掲載)

※ Scripps College の場合、大学 Web-site に掲載されている「学生の声」を訳出した。なぜなら、上の注でも説明しているように、Scripps は他の女子大学とは置かれた状況が少なからず異なるからである。Scripps を含む5Cつの大学（学部レベル）と2つの大学院大学からなる The Claremont Colleges（大学群）を形成し、これらの諸機関は隣接して所在する。単位取得を含めて比較的自由に行き来でき密接に結びついている。

大学の難易度は非常に高く、2022-23National Liberal Arts Colleges Rankings [U.S. News] では、Pomona 3位、Claremont McKenna 9位、Harvey Mudd 29位、Pitzer と Scripps は33位に位置づく。Scripps は Bryn Marw (31位) Mount Holyoke (36位) と同レベルである。（筆者）

出典：<https://www.usnews.com/best-colleges/rankings/national-liberal-arts-colleges> (2023.9.10.)

シモンズの声—トランスジェンダー学生への支援
(VOICES OF SIMMONS – Support for Transgender Students)

February 24, 2017

ヘレン・ドリナン (Helen Drinan) 学長からのメッセージ

教育省と司法省が、学区と大学に対して、トランスジェンダーの学生が自分のジェンダー・アイデンティティと一致する施設を使用できるように指示していた共同指針を、最近になって撤回したことについて熟考するため、本日、これを書いています。この動きは、決定を州レベル（の方針転換）に押し上げることになるでしょう。

私はこうした動きに対して非常に憂慮しているのですが、その一方で、連邦レベルにおけるこのような変更の中であって、マサチューセッツ州の既存の法律には安心感をもっており、シモンズ大学では、トランスジェンダーとノンコンフォーミング (non-conforming) * の者の受け入れについて、引き続き全力を傾注していくことを改めて皆さんに確認したいと思います。マサチューセッツ州の法律は、引き続き、教育、雇用、住宅、融資、公共施設のあらゆる領域で、トランスジェンダー個人の平等な権利を保護していくのです。チャーリー・ベイカー州知事も、マサチューセッツ州ではトランスジェンダー学生は保護され安全であることを、改めて再確認しました。

歴史ある女子大学は、ジェンダーに関する伝統的な考え方や期待に対して、常に異議を申し立ててきました。女子大学は、ジェンダーを理由に疎外されてきた個人を支援するコミュニティになるべく努力しています。近年、女子大学は入学方針の透明性の向上のみならず、サービスの拡大、あるいはコミュニティでの教育活動を通じて、トランスジェンダー学生を支援し、受け入れる主導的役割を果たしているのです。こうした活動は、高等教育のみならず私たちの国家にも重要なモデルを提示し、トランスジェンダー学生が自らの学習に最もふさわしい環境で教育を進めていく新たな道筋を提示することになりました。

シモンズ大学は、トランスジェンダーやジェンダー・ノンコンフォーミングの学生たちが安心してことができ、周囲に支えられて十分に受け入れられていると感じることができる、そして平等に教育機会が得られる文化の創造に努める教育機関であることを誇りにしています。

長い歴史を通して行ってきたように、シモンズ大学はこれまでと同様、多様性を受け入れる文化を創造していくことを約束します。あらゆるジェンダー・アイデンティティとジェンダー表現こそが私たちのコミュニティを豊かにしていくのであり、それを最も歓迎している場所が本学であることを、皆様にお知らせします。

* ノンコンフォーミング (non-conforming)：一般的に社会で受容され、期待されている性別による行動や規範に対して異議を唱えている者を指す非常に広い概念

出典：<https://www.simmons.edu/news/support-transgender-students>

2022年12月23日 retrieved (2023年9月10日現在においても掲載)

アドミッションポリシー告知 (Admission Policy Announcement)

May 2, 2015

スミス大学理事会は(2015年)5月2日の会合にて、スミスの学士課程入学規定を明確化し、自認するトランスジェンダー女性を含めることを決議した。理事会の決定は、スミスの女子大学としての揺るぎない使命とアイデンティティ、女性の多様な生活経験に寄り添い、そして世界中の女性の地位向上のために果たすべき本学の卓越した役割を確認するものです。

この方針決定は、理事会と任命されたアドミッション・ポリシー研究グループが、1年をかけて社会のジェンダー理解の進展に照らして、本学のアドミッション・ポリシーを見直した公的な研究の集大成です。研究グループは、学内コミュニティ、卒業生、保護者の声に注意深く耳を傾け、法律の専門家を含む外部の専門家らに助言を求めるとともに、独自調査を行いました。理事会の決定には、教授陣の諮問投票とともに研究会の提言が反映されました。

理事会で承認されたこの方針は、2015年秋以降に出願する学生から適用されます。この方針についての詳細は[こちら](#)*をご覧ください。

スミス大学は、女性のための女子大学としての伝統とアイデンティティに則り、組織内のコミュニケーションにおいて、女性代名詞を含むジェンダー表現を引き続き使用してまいります。

スミス大学の使命は、素晴らしい人生(Lives of distinction)をつくりあげる有望な女性を教育することです。スミスはその創立以来、女性のアイデンティティ概念を進化させてきました。スミスの卒業生たちは、女性に対して向上心と自己表現の自由を鼓舞する運動のリーダー役割を担ってきました。同時に、女性を中心に据えるスミスの教育環境は、(女性たちに)力強い変革をもたらし続けているのです。

機会の提供(access)や多様性への深い関与、一人ひとりの尊厳の尊重、社会のあらゆる領域でリーダーシップを発揮できる女性の育成など、これまでスミスの価値観がどのように実践されてきたのかを振り返りながら、時代が変化する中で、私たちは女子大学としてどうあるべきか、改めて考えていくことが求められています。私たちは、この1年間、慎重にコミュニティの声に耳を傾け、真剣に審議して下さった研究会の皆様、そしてこの重要な課題について時間を割いて意見を交換して下さったスミス・コミュニティの何千人もの方々に感謝をいたします。明確化された私どものアドミッション・ポリシーは、創立の使命を堅持しながらも、変化する世界を取り込み進化していく女子大学のあり方を映し出しているのです。

敬具

Kathleen McCartney 学長

Elizabeth Mugar Eveillard '69 理事長

* “Admission Policy Announcement” (<https://www.smith.edu/studygroup/faq.php>) につながる。

出典：<https://www.smith.edu/studygroup/>

2022年12月23日 retrieved (2023年9月10日現在においても掲載)

ジェンダー・アイデンティティとジェンダー表現 (Gender Identity & Expression)

トランスジェンダーの学生、スタッフ、教員が、大学キャンパスにおけるジェンダー・ダイバーシティ (多様性) に関してよく尋ねられる質問があります。以下にその一部を取り上げ、回答いたします。

スミス大学は今も女子大学ですか？

大学の使命と法的地位において、スミス大学は女子大学です。また、スミス大学は、学生がオープンかつ互いへの尊重に満ちた環境の中で、自分が誰なのかを探求することのできる場所でもあるのです。

スミス大学にトランスジェンダーの学生はいますか？

もちろんいます。トランスジェンダー、ノンバイナリー (Non-binary)、ジェンダーノンコンフォーミング (Gender non-conforming) の学生、教員、スタッフがいます。スミス大学の学生は、相手を尊重しながら、社会的、学問的に相互に関わり合っています。本学のコミュニティは、全学生が表明する様々なアイデンティティを尊重しているのです。

トランスジェンダーの学生はどのようなサポートを受けられますか？

スミス大学では現在、トランスジェンダーの学生向けサポートを積極的に増やしていています。現在利用できるリソースには以下のようなものがあります。

- ・セクシャリティとジェンダーに関するリソースセンター
- ・The Office for Equity and Inclusion (公正さと包摂性に関するオフィス)、そこにある Trans/Non-binary Working Group トランス／ノンバイナリー・ワーキンググループ：グループ連絡先… (略)
- ・Transcending Gender：教育とサポートに重点を置いた学生組織
- ・カウンセリングサービスが運営するトランスジェンダーサポートグループ
- ・200 以上のオールジェンダートイレ
- ・体育施設のオールジェンダーロッカールーム (プライベートなシャワー室、更衣室つき)

最近の連邦政府の措置は、トランスジェンダーの学生、スタッフ、教員にどのような影響を及ぼしていますか？

2017 年 10 月、公民権法第 7 編 (Title VII) に基づくジェンダー・アイデンティティの連邦政府保護が覆されたことは、マサチューセッツ州の法律、あるいはトランスジェンダーおよびノンバイナリーの職員と学生に対する差別や嫌がらせから彼 / 女らを守るスミス大学の取り組みに影響を与えるものではありません。本学は、差別禁止に関する通知 (Notice of Non-discrimination) を全面的に支持し、これを確認するものです。今後も、ジェンダー・アイデンティティに基づく差別に関するあらゆる出来事を、本学の方針および原則に違反するものとして対処していきます。

スミス大学に入学できるのは誰ですか？

自らを女性と認識するシスジェンダー、トランスジェンダー、ノンバイナリーの女性が入学できません。

トランスジェンダーおよびノンバイナリの女性が願書を提出する際に考慮すべきことは何ですか？

スミス大学の方針は何らかの自己同定できるものを求めます。志願者自らのアイデンティティが確認できれば、それで十分です。

出典：<https://www.smith.edu/about-smith/equity-inclusion/gender-identity-expression>

(掲載された日時は不明)

2022年12月26日 retrieved (2023年9月10日現在においても掲載)

スペルマン大学 Spelman College (所在地：Atlanta, Georgia) / 創立：1881年)

学長からスペルマン・コミュニティへの手紙 スペルマンの入試及び入学者受け入れ方針 (Spelman Admissions and Enrollment Policy)

September 5, 2017

コミュニティの皆さまへ

新年度を迎えるにあたり、スペルマンは能力の高い優秀な黒人女性に対して質の高い教育を提供する独自の能力を備えていることをあらためて誇りに思います。スペルマンの使命が私たち教職員に求めるものは、将来、世界市民となり、意義ある社会変革の担い手となり、各分野のリーダーとなる学生をスペルマンから送り出すことです。

本学年はとりわけ重要な年となります。スペルマン大学は今後5年間の指針となる新たな戦略計画を立ち上げました。今後数週間で、本学の新しいビジョンのハイライトを発表していきます。新計画の立ち上げに伴い、本学は、高等教育機関の競争環境の把握と、入試および入学の方針を含む数多くの方針について慎重な検討を行ってきました。全国の同性大学と同様に、スペルマン大学では、変化する世界におけるジェンダー・アイデンティティの定義変化を考慮しながら、本学の方針と計画に、本学の使命および行動規範に一致する形で、これらの変化を確実に反映させるよう措置を講じていきます。

本学は常に、思慮深く情報に基づいて意思決定を行うことを目指しています。そのため、2016～2017年度は、教員、職員、学生、卒業生、評議員から構成される特別委員会を組織し、進化するジェンダーの理解および知識に対応した、大学の入試・入学方針の検討を行いました。1年にわたる調査、他の女子大学との比較評価、学生、教員、職員、卒業生への大規模な聞き取り、スペルマン大学のコミュニティへのアンケートを行った後、同特別委員会は、スペルマンの学長および大学理事会に一連の提言を行いました。

この大規模な調査の結果、私は学長として、スペルマン大学の幹部および理事会とともに、次のような入試・入学方針に同意します。歴史ある黒人大学であるスペルマン大学は、成績優秀な黒人女性に奉仕することをその使命とし、出生時の性別にかかわらず、一貫して女性として生活し、自らを女性と認識する学生を含む、女子学生の出願を受け付けます。スペルマン大学は、出生時の性別にかかわらず、自らを男性と認識し、一貫して男性として生活している学生を含む、男子学生の出願を受け付けません。スペルマンに在学している女性が男性に性別を転換した場合、大学はその学生が引き続きスペルマンで学び、卒業することを許可します。

この入学方針を採用することにより、スペルマン大学は、Spelman Sisterhood（スペルマンにおける女性の連帯）の力を今後も強く信じてまいります。スペルマン大学を志望する学生は、学問的、知的に厳格で、成績優秀な黒人女性の教育と能力開発をコアミッション（中核的使命）とする女子大学の一員となる覚悟で本学にやってきます。

上記の入学方針は、2018、2019年度に入学する学生から適用されます。私は、実行委員会に、今年度中に会合を開き、新しい方針が大学に及ぼす影響を検討するよう依頼をいたしました。

Mary Schmidt Campbell 学長

出典：<https://www.spelman.edu/about-us/office-of-the-president/letters-to-the-community/letter/2017/09/05/spelman-admissions-and-enrollment-policy-update>

2022年12月30日 retrieved (2023年9月10日現在においては掲載されていない)

ウェルズリー大学 Wellesley College (所在地: Wellesley, Massachusetts / 創立: 1870年)

私はウェルズリーに出願できますか？ (CAN I APPLY TO WELLESLEY?)

+ウェルズリー大学はトランスジェンダーの学生の出願をどのように受け付けていますか？

ウェルズリー大学では、女性として生活し、一貫して女性であると自認しているすべての志願者の出願を受け付けます。したがって、男性として生まれ、現在は女性と自認している志願者は出願できません。女性として生まれ、現在は男性であると自認している人は出願できません。女性の教育という本学の使命を確固として果たしていくために、ウェルズリーでは、入学選考において、自身の潜在能力を最大限に発揮する際に立ちはだかる厳しい学問環境に立ち向かう心構えができていない女性かどうかを考慮します。

+女性として生まれ、現在はノンバイナリであると自認している個人に入学資格はありますか？

あります。とはいえ、ウェルズリーは女性への教育を旨とする大学です。他にはない女性をエンパワーする（勇気づける / 力づける）学習環境が用意されています。女性が、複雑な世界で成功するための準備ができるよう、特別に設計された環境なのです。女性に特化するという点が、ウェルズリーにおける学生生活の中核を成します。ウェルズリー大学は、出生時に女性として割り振られた人、女性のコミュニティに属していると感じている人からの出願を受け付けます。

+出願資格のあるトランスジェンダーの学生がオンライン出願について質問したいとき、どうすればよいですか？

オンラインの共通願書（Common Application）の準備または提出について質問のある方は、入試事務局（Office of Admission）に電話し、担当のカウンセラーに質問してみることをお勧めします。カウンセラーは、月曜から金曜の午前8時30分から午後4時30分（東部標準時）に利用でき、有意義なアドバイスを提供しています。

注記：共通願書では、オンライン出願者は、自身のジェンダー・アイデンティティに関係なく法的な性別の記入が求められています。女性であると自認している人が、この質問への回答が原因でウェルズリー大学への出願に支障をきたした場合は、入試事務局に連絡をして、助言を求めてください。本学の入試カウンセラーは、願書の提出に関するこのような問題に対処するための支援を行っています。

出典：<https://www.wellesley.edu/admission/faq#transgender>（掲載された日時は不明）

2022年12月26日 retrieved（2023年9月10日現在においても掲載）

注

Chair of the Board of Trustees / Chair, Board of Trustees の翻訳については、“評議会議長”ではなく“理事長”と訳している。

付記

本稿は2020-24年度 科学研究費・基盤研究（B）「大学におけるトランスジェンダー学生の受け入れ課題：日米の女子大学事例を中心に」（20H01639,）による研究成果の一部である。